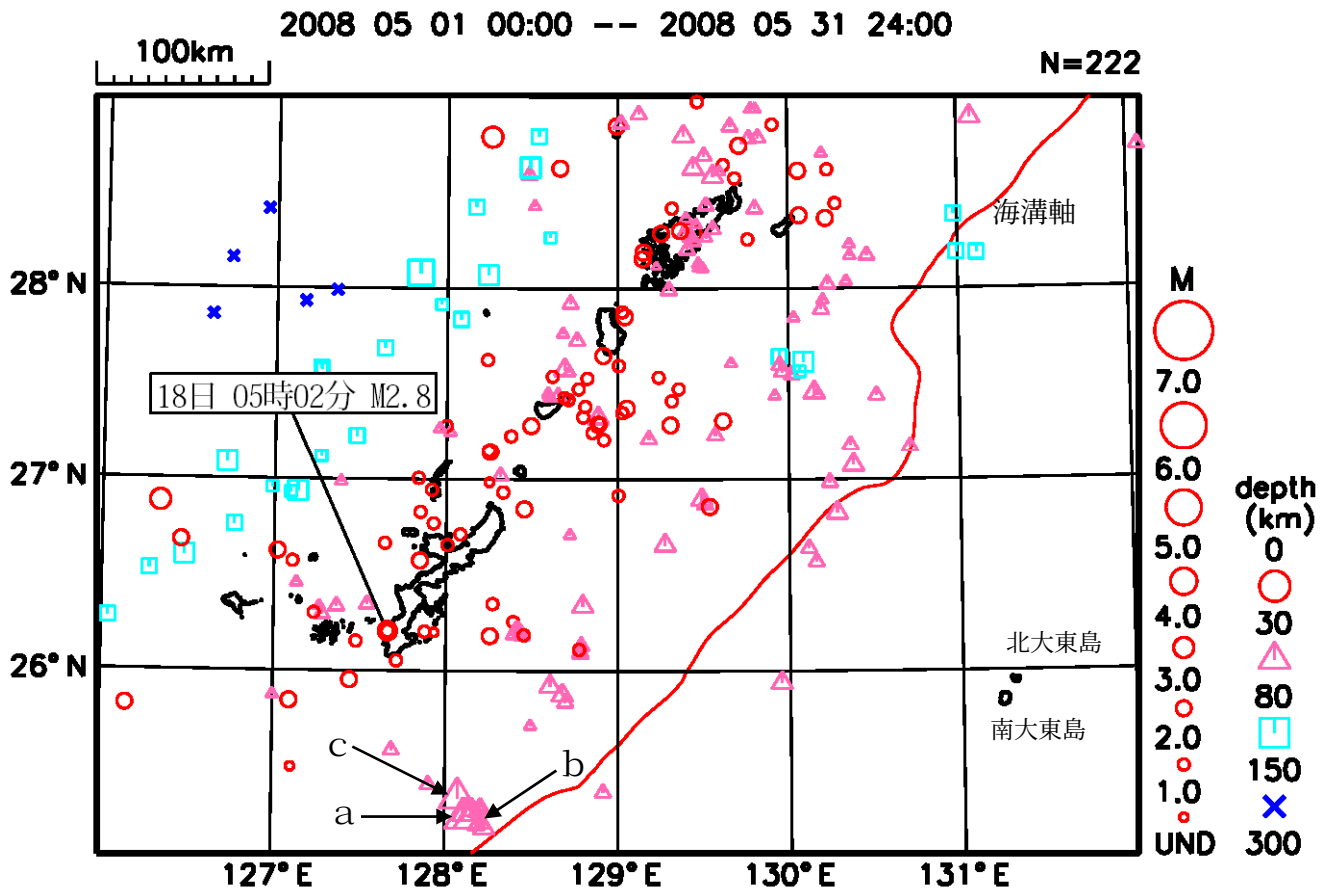


大東島地方の地震活動図

2008年（平成20年5月）

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：地震の深さ N：地震回数

UND：マグニチュードの決まらない地震が含まれていることを意味する

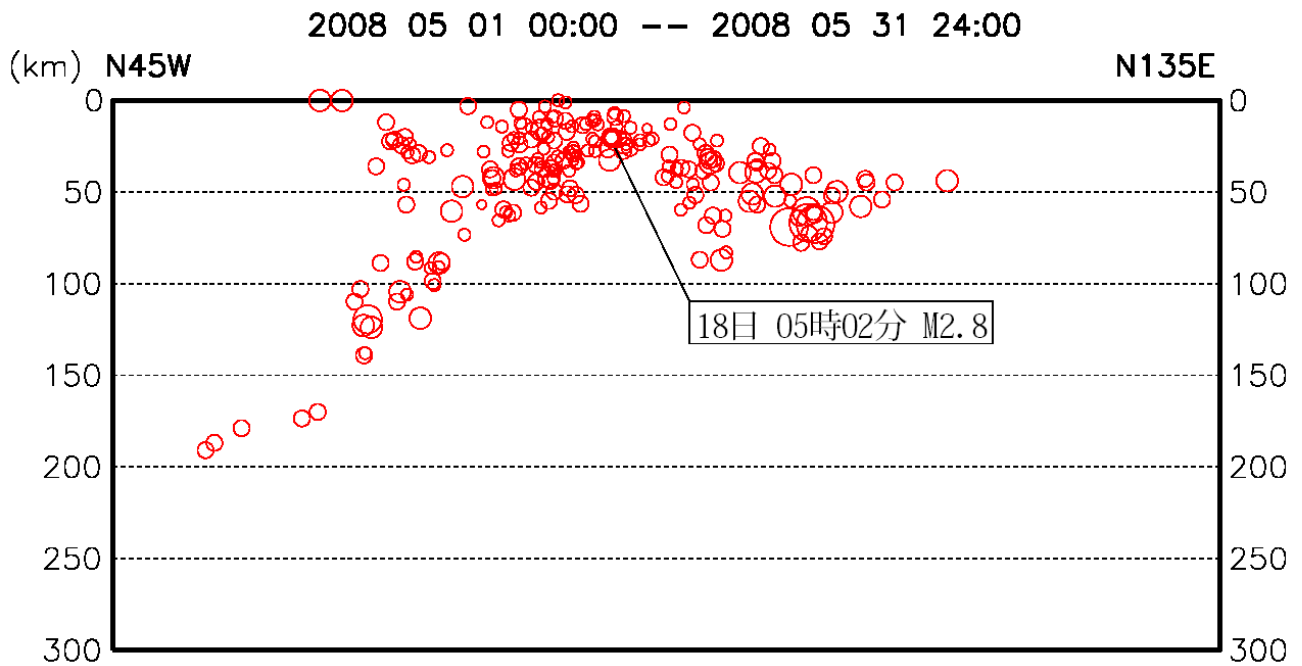
[概 況]

今期間に観測された地震は222回（4月208回）でした。このうち、M4.0以上の地震は5回（4月4回）、震度1以上を観測した地震は1回（4月8回）でした。

18日05時02分に沖縄本島近海でM2.8の地震（深さ20km）が発生し、那覇市、西原町、南城市で震度1を観測しました。

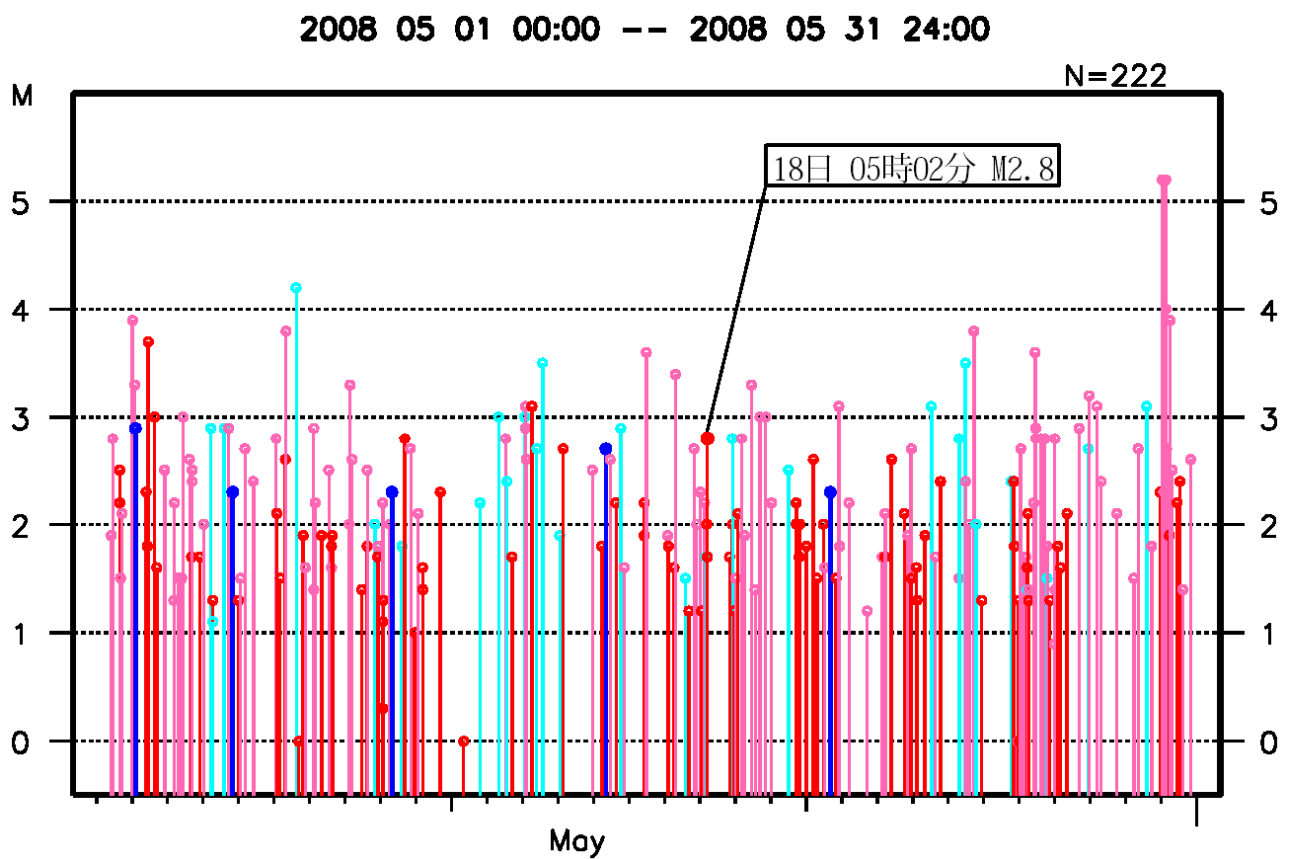
今期間の最大規模の地震は、31日00時47分（図中a）、02時43分（図中b）、03時11分（図中c）に沖縄本島近海で発生したM5.2の地震でした。

断面図



(震央分布図を南西方向から見た深さ 300km 以浅の断面図)

地震活動経過図



震度1以上を観測した地震の表

2008年5月1日～31日

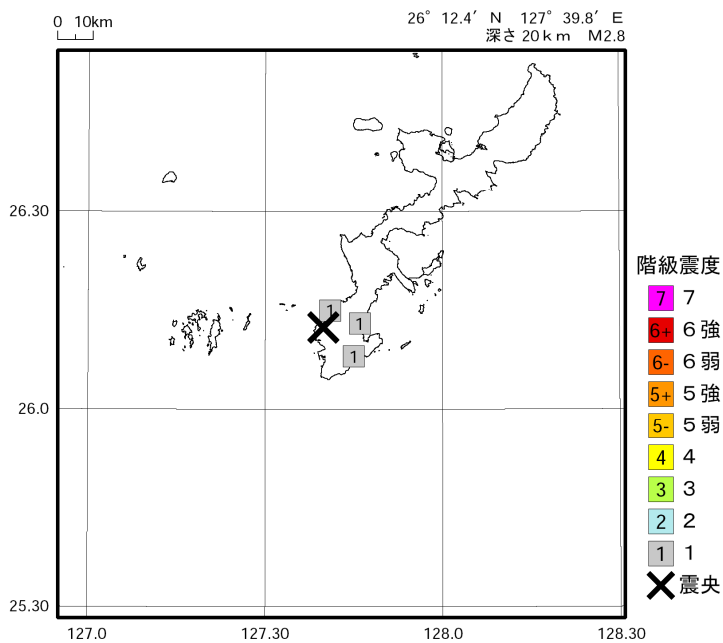
震源時 日時分	震央地名	北緯	東経	深さ km	規模 M
18 05 02	沖縄本島近海	26 ° 12.4 '	127 ° 39.8 '	20	2.8
沖縄県	震度 1 : 覇市港町＊,西原町嘉手苅＊,南城市玉城前川				

※ 地震の震源要素及び震度は再調査された後、修正されることがあります。

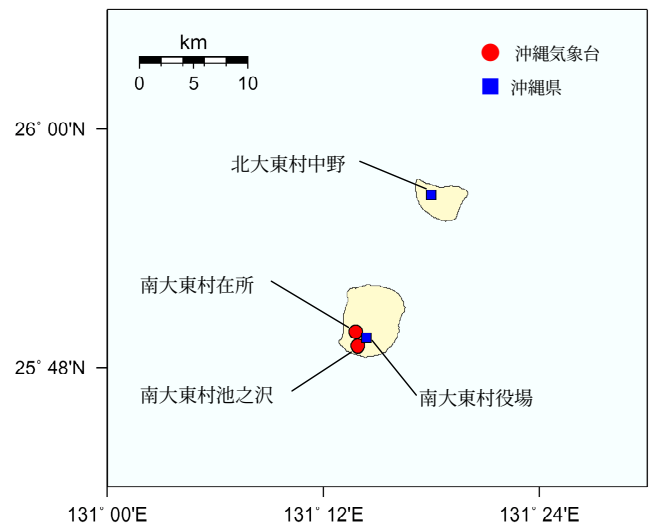
※ ＊は沖縄県または防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度1以上を観測した地震の震度分布図

2008年5月18日05時02分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



大東島地方の震度観測点



防災一口メモ

「日本付近のプレート運動」

日本列島は、北海道と本州東北部が北米プレートという大陸プレートの上に乗っており、本州南西部、四国、九州、南西諸島はユーラシアプレートという大陸プレートの上に乗っています。日本列島を乗せたこれらの大陸プレートの下に、太平洋プレートとフィリピン海プレートという海洋プレートが沈み込んでいます。

日本列島とその周りではこれら4枚のプレートが接し、巨大で複雑な力を及ぼし合い、地下の岩石に歪が蓄積され、それが原因となって活発な地震活動を引き起こしています（図1）。

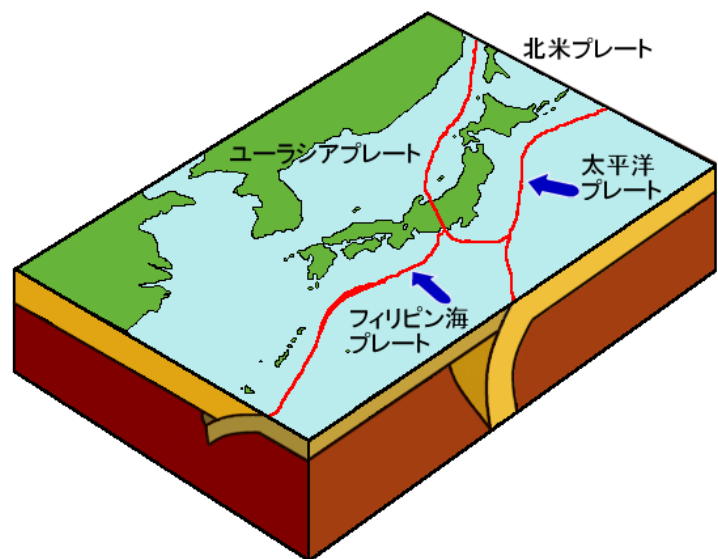


図1 日本付近のプレート運動

南西諸島付近では、沖縄本島などの沖縄諸島と石垣島、宮古島などの先島諸島がユーラシアプレートに、一方、南北大東島の大東島諸島がフィリピン海プレートに乗っています。フィリピン海プレートは、1年間に約7センチメートルの速度で南東から北西方向へ移動し、ユーラシアプレートの下に沈み込んでいます。両方のプレートの境界が琉球海溝です（図2）。

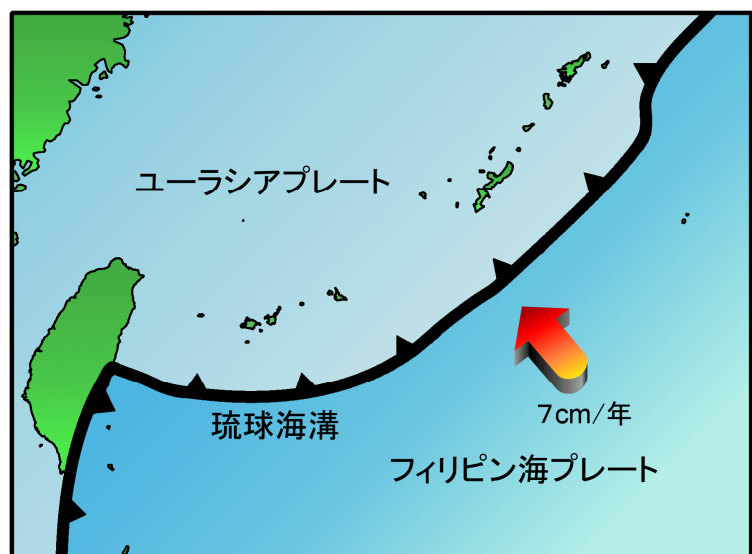


図2 南西諸島付近のプレート運動